

# 四徳集落跡

## 土石流に押し流された集落

中川村の四徳集落周辺地域は、小さい谷が網の目のように広がる丘陵地帯で、三六災害時には土石流が起こり、小渋川合流点で河床が約10m上昇した。四徳集落では80戸のうち61戸が被災し、7名が死亡した。人々は集団移住を余儀なくされ、700年に及ぶ集落の歴史に終止符を打った。今ではカラマツからなる林に戻っている。



四徳神社にある、災害移住記念碑

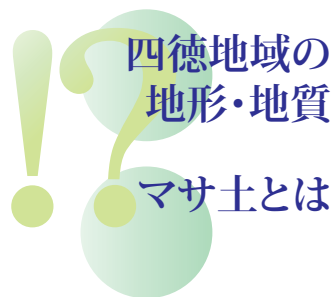


四徳川からの鉄砲水により集落が流されると同時に、土砂崩れによる災害が発生し、集落が壊滅状態に陥った。1873(明治6)年から続いた分校も90年近い歴史を閉じた。分校跡地(左)には、四徳学校跡の碑(下)がある。



### information

- アクセス  
松川ICから20km  
車→40分
- 所在地  
中川村四徳



### 四徳地域の 地形・地質

### マサ土とは

四徳地域の地質は、風化するとマサ土となる花崗岩が主で、もろく崩れやすい土地である。三六災害では、大雨でこのマサ土が土石流となって流れた。

花崗岩が風化して崩れてできた粗い砂。強い降雨により多量の砂が流れ出す為、花崗岩地帯の多くが砂防指定地や保安林に指定され、土砂災害対策が講じられている。



(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)